

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その107

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

NISAで何が買われているか? 6月に既存と新規
とネットで共通するのが日本株ファンド人気!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

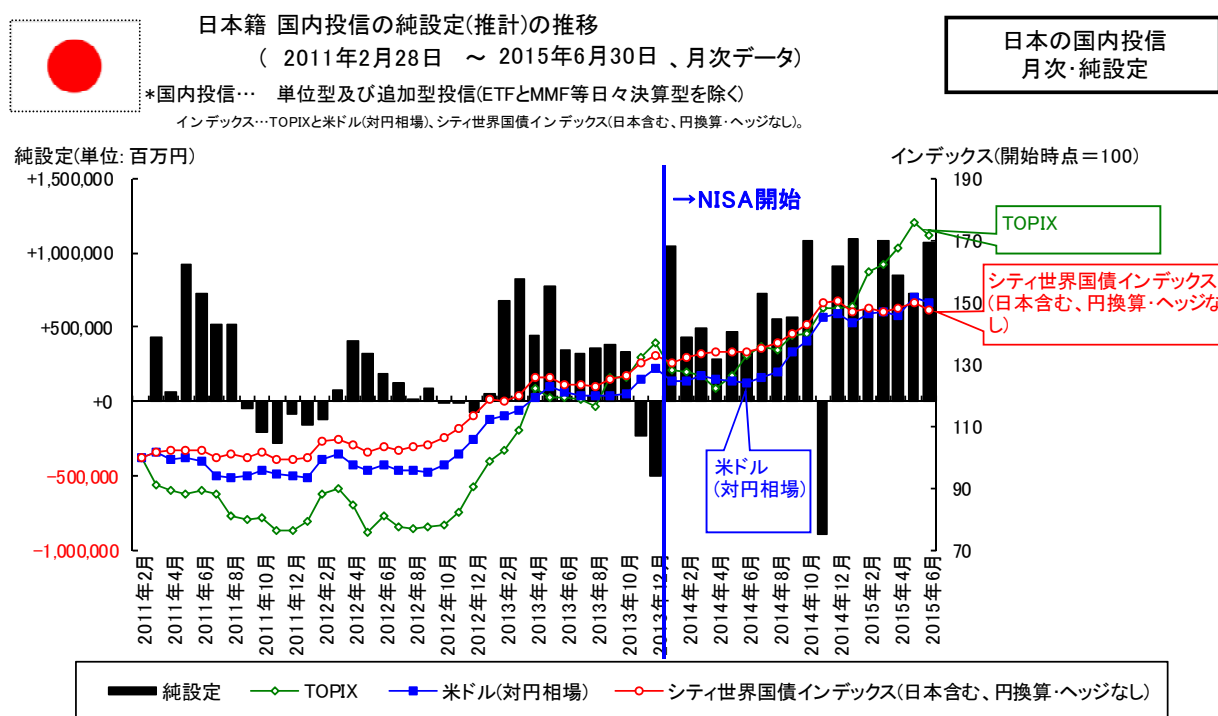
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

『日本再興戦略』改訂 2015』でも拡大が期待されている NISA で何が買われているか

2015年6月30日(火)に安倍政権の成長戦略『日本再興戦略』改訂 2015』が閣議決定された。その中で NISA(少額投資非課税制度) について、「来年から導入されるジュニア NISA(年間投資上限額 80 万円)を含め NISA の更なる利用拡大に向けた施策を推進する」とこととされた(URL は後述[参考ホームページ])。2016 年から始まるジュニア NISA を中心に、NISA 拡大への期待は大きい。この様に一層の拡大を期待されている NISA について、当コラムで恒例となっている日本全体で NISA では何が買われているのかを見る。『日本再興戦略』改訂 2015』には「真に投資家ニーズにかなう、より質の高い商品の提供を促す」ともあるが、「何が買われているのか」を見る事で投資家ニーズの参考になると思われる。

既存投資家は復活した日本株、その他、REIT やグローバル債を買っている様だ

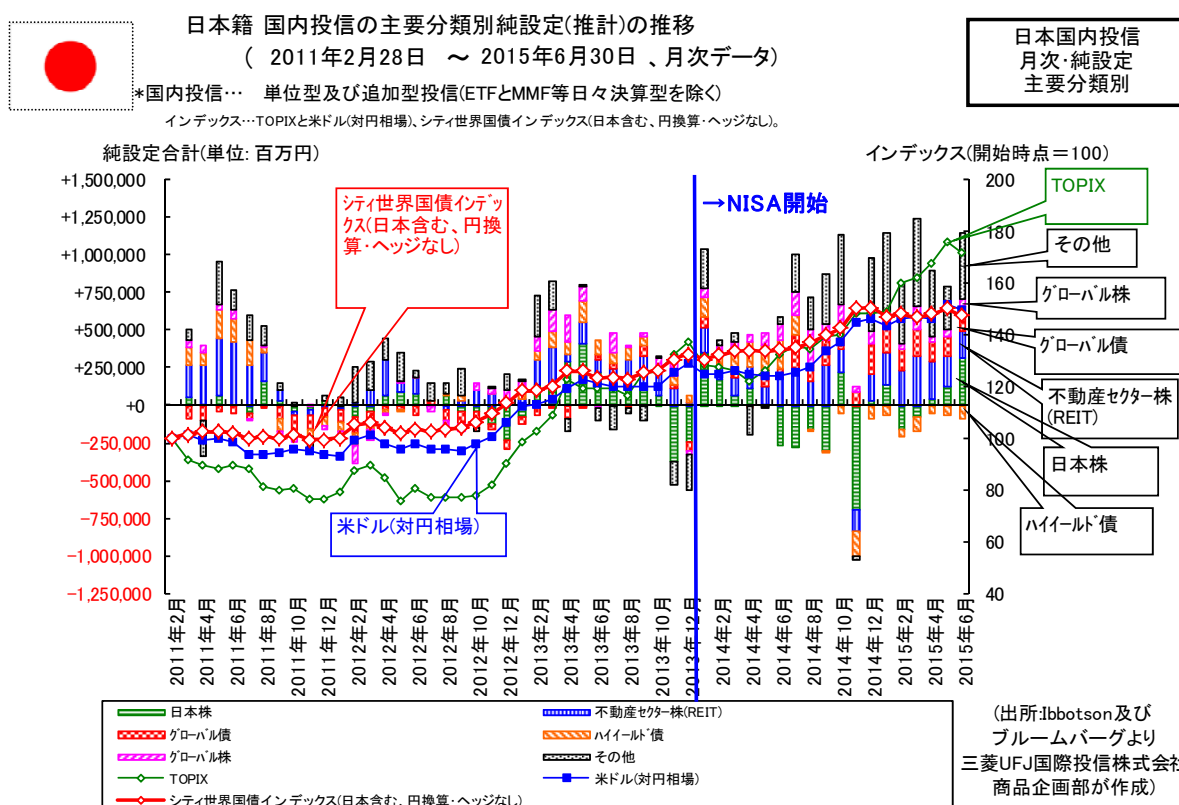
ここでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分けて見る。既存投資家は投信全体の動向で代替し、新規投資家は NISA 向けファンド(後述※1 参照)で代替する。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は最新 2015 年 6 月に+1 兆 690 億円と前月 5 月の+7305 億円を上回る純流入で、7 カ月連続純流入となっている。日銀が 6 月 29 日に発表した資金循環統計では家計が保有する投信は 2015 年 3 月末に 95 兆 4587 億円と 4 四半期連続の過去最高を更新しており、「家計の積極的な投信運用が続いている」(2015 年 6 月 29 日付ロイター)と報じられていたが、その後も投信への資金流入は引き続き好調である。



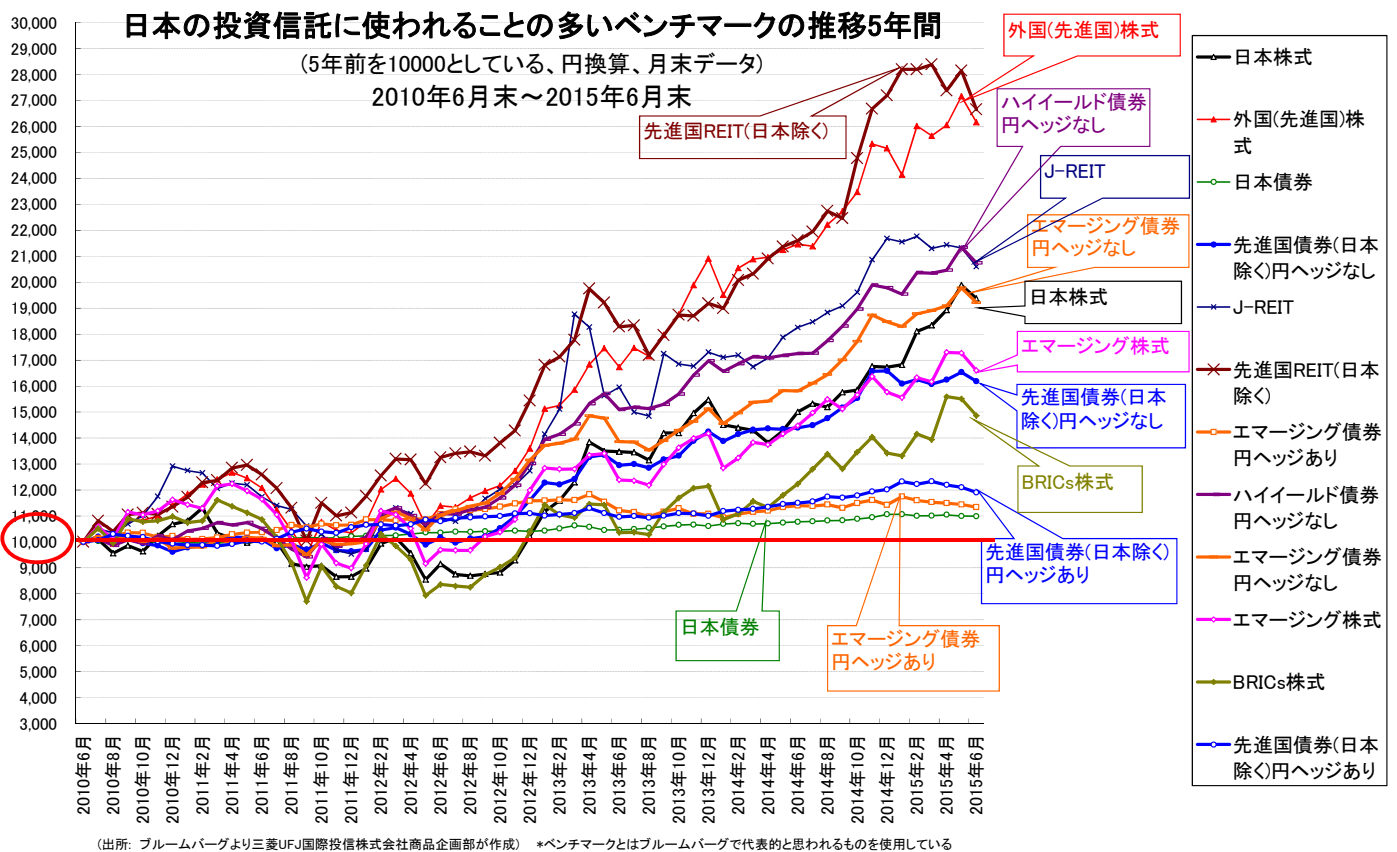
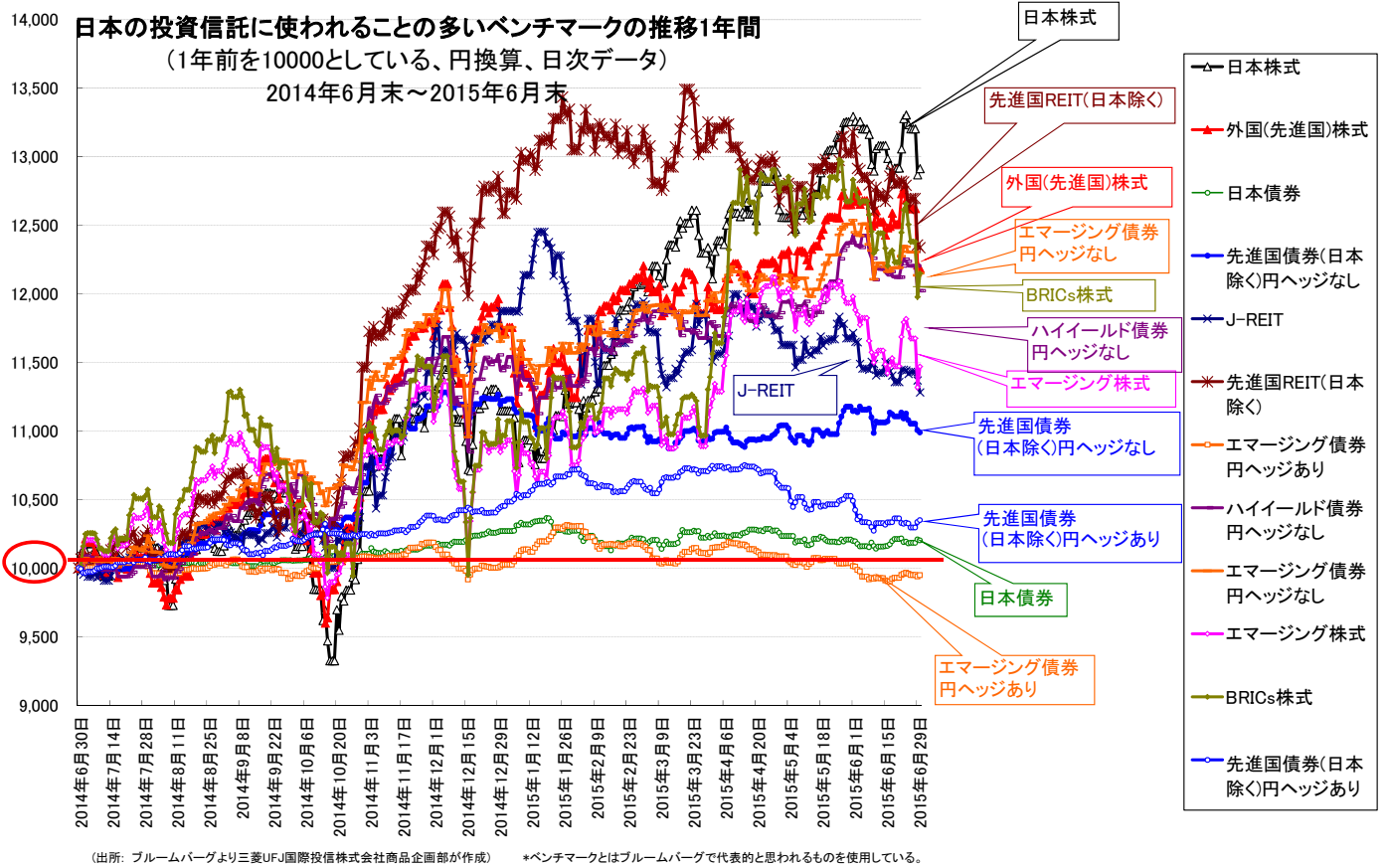
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

投資対象(主要分類)別で見よう。最新 2015 年 6 月は日本株が最も大きな純流入であり、次いで不動産セクター株(REIT)、グローバル債、アセットアロケーション柔軟型、アジア株(除く日本)などに資金が集まっている(*主要分類…モーニングスター分類を用いて 2014 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。アセットアロケーション柔軟型、アジア株はその他に含まれる)。

日本株の純設定は 2015 年 6 月に+3193 億円と、不動産セクター株(REIT)の+1826 億円の 1.7 倍であり、前月 5 月の日本株+1275 億円の 2.5 倍となっている(*前月 5 月は 4 月+481 億円の 2.7 倍)。昨年(2014 年)1 年間は -6742 億円の純流出だった事から日本株の大きな復活が目立っている(2014 年については 2015 年 1 月 13 日付日本版 ISA の道 その 86 を参照～後述 URL[参考ホームページ])。

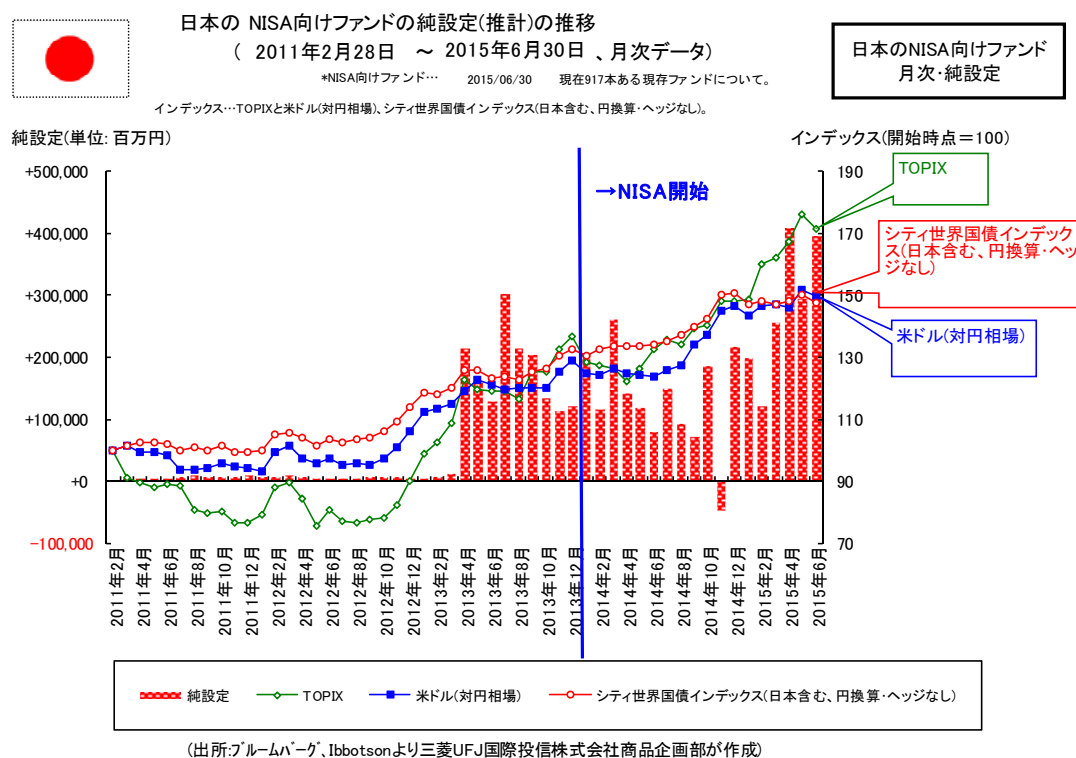


こうした背景だが、パフォーマンスの好きによるところが大きそうだ。投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たのが次頁グラフである。次頁上段が 1 年のパフォーマンスで、好い順に、日本株式、先進国 REIT、先進国株式、エマージング債券、BRICs 株式となっている(*グラフは 1 年前を 10000 としている、円換算、日次データ)。次頁下段が 5 年のパフォーマンスで、好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債券、J-REIT、日本株式となっている(*グラフは 5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。



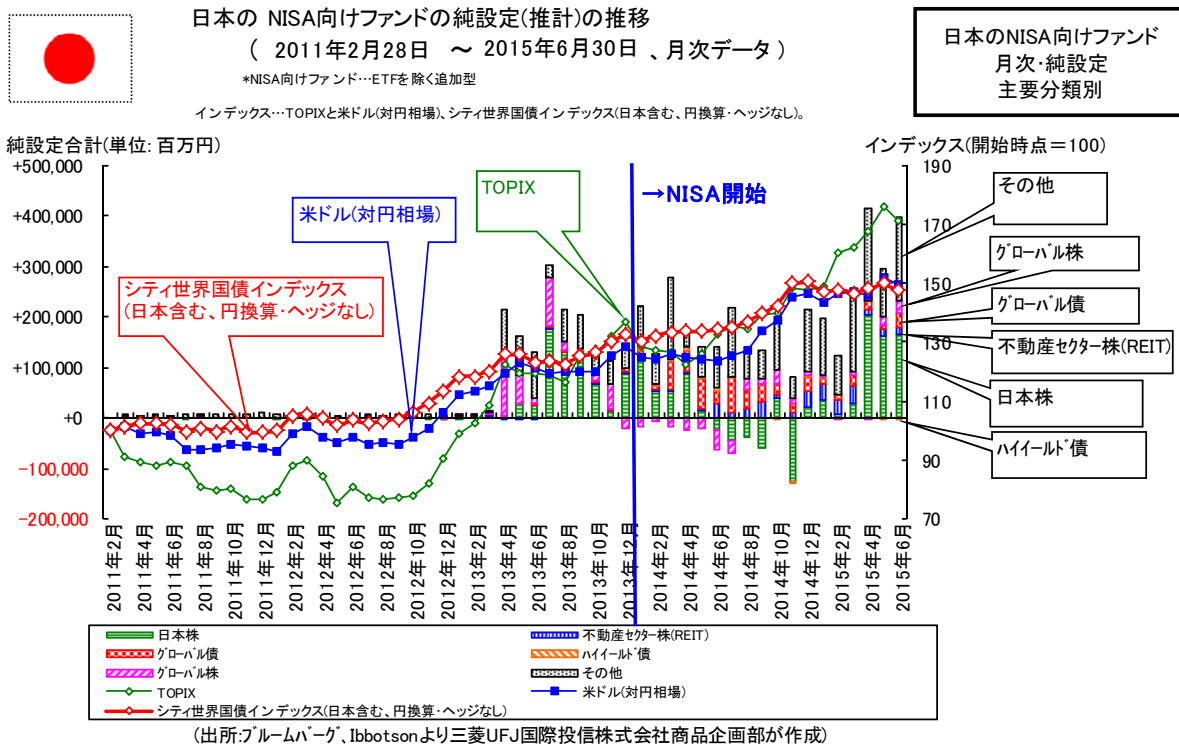
新規投資家は引き続き日本株・アセットアロケーション・グローバル債を買っている様だ

新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※1 参照)の純設定を見ると、最新 2015 年 6 月に+3940 億円と、前月 5 月(+2925 億円)を上回り、2014 年 12 月から 7 カ月連続の資金純流入となった。6 月の+3940 億円と言う純設定額は、NISA 開始(2014 年 1 月)以来最大となった 2015 年 4 月の+4080 億円に次ぐ 2 番目に大きな資金純流入である。既存投資家も新規投資家も、昨年 2014 年 11 月に純流出となって以来、純流入が続いているが、2015 年においては既存投資家に比べて新規投資家の伸びが大きい。



新規投資家は若年層が多いと思われるが、この若年層の NISA 投資が伸びていると言う事については、金融庁の「NISA口座の開設・利用状況調査」で、20 歳代と 30 歳代の NISA 口座に占める買付額の割合が、2015 年 3 月末に 10.3%と一年前の 2014 年 3 月の 8.5%から上昇したことに示されている(URL は後述[参考ホームページ])。

この新規投資家と思われる投信の 2015 年 6 月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いる。純流入 1 位は日本株(前月 5 月も 1 位)、2 位はアセットアロケーション柔軟型(同 2 位)、3 位はグローバル債(同 8 位)、4 位はアジア株(除く日本)(同 3 位)、5 位はアセットアロケーション積極型(同 4 位～資産を柔軟に変更はしないが株式が多い型)となっている(アセットアロケーション柔軟型/積極型およびアジア株(除く日本)は、次頁グラフで「その他」に含まれる)。



既存投資家で復活著しかった日本株が、新規投資家においては2015年4月以降、全体の純設定の約半分を占めるほど人気が続いている。また、グローバル債やアセットアロケーション型も人気となっている。

投信における日本株人気だが、投信は日本株現物より売却率が低いという調査結果がある事から(*NISA 売却率…投信5.6%、株式28.4%、ETF28.0%、REIT28.3%～金融庁公表の2014年12月末時点のNISA利用状況、URLは後述[参考ホームページ]参照)、日本株ファンドも売却率が低い可能性があり、こうした売却率の低い日本株投資が進んでいる事は、中長期的な資産形成を後押しするNISAとしては好ましい事とも言えそうである。

NISAで日本株現物に投資する事は「投資の未経験者が資産形成の手段としてNISAを使うなら、株式は不向きな金融商品といえる。そもそも価格変動リスクが大きいという、100万円の枠内では購入できる銘柄数が限られて、リスク分散が難しい。しかもNISA口座ではいったん保有株を売却すると投資枠がその分、減ってしまうから、こまめな利益確定や機動的な銘柄入れ替えがやりにくい。」(2015年6月23日付日本経済新聞)という意見もある。

※1: 「NISA向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2015年6月30日時点で917本となった。

ネット証券での人気は日本株・REIT・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2015年7月8日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新2015年6月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・4位はアジア株ファンド、2位は日本株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。前月5月だが、1位はアジア株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンド、4・5位はグローバル株ファンドだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2015年6月22日から6月26日までが、1・2位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、4位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約1カ月前の2015年5月25日から5月29日までが、1位はアジア株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位は日本株ファンドだった。

○カブドットコム証券では、2015年6月のNISA口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位は日本株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。前月5月だが、1・3・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、5位は日本株ファンドだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年6月29日から7月3日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年6月1日から6月5日までが、1・4位は日本株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、5位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年6月29日から7月3日までのNISA投資信託・買付金額の1・3・5位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約1カ月前の6月1日から6月5日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はグローバル株ファンドだった。

<NISA積立~2015年7月8日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015年6月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は新興国株ファンドとなっている。

○カブドットコム証券では、2015年6月のNISA口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1位はアセットアロケーションファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は新興国株ファンド、5位は日本株ファンドとなっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015年6月29日から7月3日までのNISA口座では、1・2・4位は日本株ファンド、3・5位はグローバル株ファンドとなっている。

ネット証券のNISA投資動向は、新規投資家および既存投資家の傾向と同様、引き続き日本株、次いでREITファンドが人気で、アジア株など外国株への人気も見られた。

以上、既存投資家は日本株・REIT・グローバル債を買っている様であり、新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・グローバル債を買っている様であった。ネット証券での人気は日本株・REIT・グローバル株であった。つまり、2015年6月において既存と新規とネットで共通するのが日本株ファンド人気だった。「金融商品の選択肢があまりに多い。…(略)…『情報が多すぎる』。結局、『何を買えばいいのか分からない』」(2015年3月3日付日本経済新聞朝刊)と言われる中、少しでも参考になれば幸いである。もちろん、これは2015年6月においての事で今後は不明である。引き続き、データ等をしっかり見て判断していきたいものである。

以上

[参考ホームページ]

2015年6月30日に閣議決定された「『日本再興戦略』改訂2015」…

「http://www.kantei.go.jp/jp/headline/seicho_senryaku2013.html#c16

(http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/dai2_3jp.pdf)」、

2015年6月10日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成27年3月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150610-1.html>」、

2015年6月29日付ロイター「家計の金融資産残高、過去最高を更新 企業は現預金積み増し」…

「<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0ZF0BS20150629>」、

2015年1月13日付日本版ISAの道 その86「税制改正大綱にジュニアNISA創設とNISA120万円への引き上げ1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA拡充に期待が膨らむ中、NISAの2015年分で何に投資する?

NISAの2014年分の投資(投信分)を総括!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150113.pdf>」、

2015年6月23日付日本経済新聞「NISAで株式投資 高配当か、成長株か」…

「<http://www.nikkei.com/money/features/83.aspx?g=DGXMZO8836149022062015000000>」、

2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成26年12月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150424-1.html>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…

「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、

カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…

「http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund_generation.html」、

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/#nisa_ranking」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。

・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。